

校内研修は一人一人の教職員の資質の向上と学校の教育力向上のために行うものです。教職員が自律的に継続的に学ぶことができる枠組みを作っていきましょう。

自律的に学ぶ

継続的に学ぶ

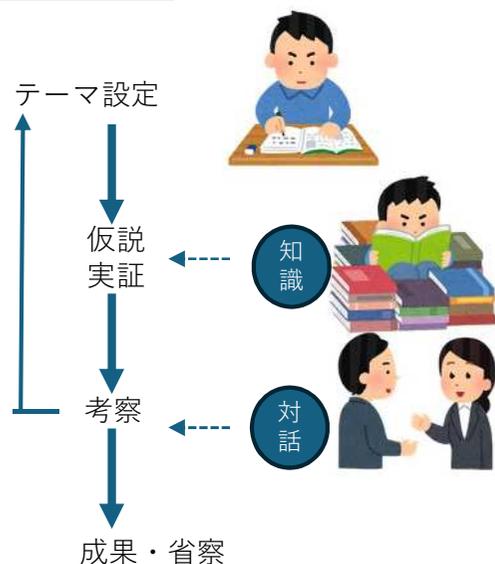
個別最適に学ぶ

協働的に学ぶ

学びの方法

年間を通して様々な形態の学びを取り入れながら教職員に求められる資質の向上を目指しましょう。

個での学び



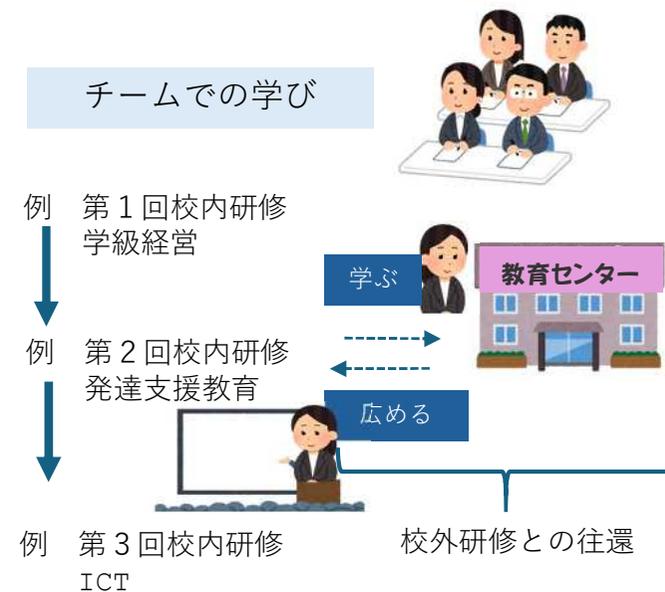
- ・年単位などの長い期間の中で、自己課題に向けて取り組む。
- ・課題は教員育成指標を参考に設定するとよい。
- ・必要な知識をインプットしたり、同僚から助言をもらったりしながら研究を深化させる。
- ・最後にはどのような力が付いたのか省察する。
- ・成果の発表を行うことで、一人一人の成果が学校の教育力向上につながっていく。

グループでの学び



- ・学校の共通テーマに向かってグループで取り組んでいく。年単位などグループを固定しながら進めていくことが一般的。
- ・グループは教科や学年、異年齢など、多様なグループを設定することができる。
- ・共通テーマを研究する中で、学校の教育力向上はもちろんのこと、一人一人の資質の向上も目指していく。
- ・最後にグループごと成果をまとめることで、学校の教育力が向上していく。

チームでの学び



- 往還以外の例
 - ・先生同士の対話
 - ・外部講師招聘
 - ・オンデマンド動画活用
- ・研修テーマや教育目標に向けて全員で取り組む。共通理解が必要な場合に有効。
- ・必要に応じてグループや個の学びを取り入れることもできる。
- ・教科・領域主任等が教育センターの研修で学んだことを校内に広めることもできる。
- ・動画コンテンツを使用して校内研修に生かすこともできる。

様々な校内研修が一人一人の資質の向上につながり、やがては学校の教育力が向上します。



重要

学びの構成

研修の構成を工夫し、丁寧なファシリテートをすることで、校内の先生方の目標達成度が大きく変わっていきます。研修の運営にも力を入れていきましょう。

基本形

【導入】

- ・ 本日の研修目的・目標の確認
「どのような力を身に付けて欲しいか」
「学校としてどのような力を高めていきたいか」を説明する。
- ・ 現状の確認や把握
研修目標に対する一人一人の現状や課題を振り返る。

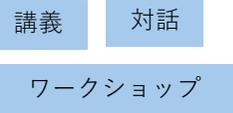


【展開】

- ・ 気づきや変化のいずれかの獲得

- ①新しいスキルや技能の獲得
- ②これまでの実践の価値付けや捉え直し
- ③自己の在り方への気づき

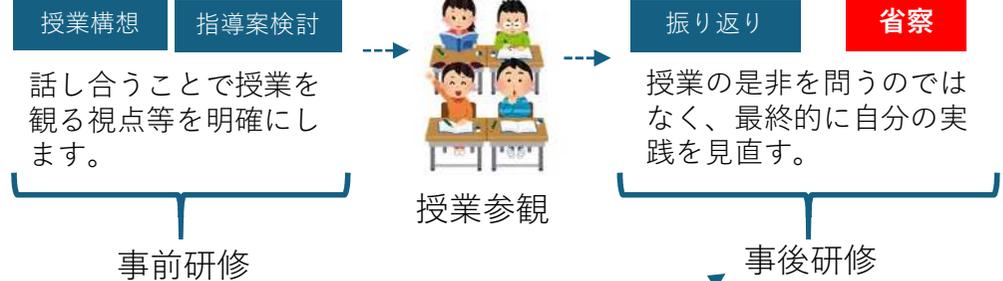
気づきや変化については、「研修観の転換」に向けたNITSからの提案（独立行政法人教職員支援機構）を参考にするとよい



【終末】

- ・ リフレクションの時間設定
「これまでの振り返り」「今後の目標設定や働き方」についてじっくりと自己省察する。
※ ICTを利用した振り返りは他者参照ができるため効果的です。

基本形を基にした授業研修



振り返りの場（事後研修会、計画訪問での分科会等）を今一度見直してみましょう。効果的な研修になっていたでしょうか？

授業者や子供の良かったこと、改善点をまとめて発表するだけでなく、それを踏まえての指導案の修正や実践の価値付けや捉え直しを行っていきましょう。そのためには、個人で省察する時間が必要です。



66

聴く研修よりも話す研修の方が、研修満足度が高いことが結果から明らかになりました。対話の時間を多く設定していくことをお奨めします。話し合うことで、個人の力量が向上するだけでなく、先生方同士の親和性も高くなり、学び合う集団が出来上がっていきます。

研修の企画・運営については、教職員研修計画も参考にしてみましょう。

